

Asia Indicators

発表日: 2025 年 9 月 26 日 (金)

オーストラリア・8月物価は加速と鈍化が混在 (Asia Weekly(9/21~9/26))

～インフレ率は加速もコアインフレ率は鈍化、政府の物価抑制策の効果が一巡する動きも～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹 (Tel: 050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
9/22(月)	(台湾)8月失業率(季調済)	3.35%	--	3.33%
9/23(火)	(マレーシア)8月消費者物価(前年比)	+1.3%	+1.3%	+1.2%
	(シンガポール)8月消費者物価(前年比)	+0.5%	+0.6%	+0.6%
	(台湾)8月輸出受注(前年比)	+19.5%	+13.0%	+20.8%
9/24(水)	(オーストラリア)8月消費者物価(前年比)	+3.0%	+2.9%	+2.8%
	(タイ)8月輸出(前年比)	+5.8%	+9.5%	+11.0%
	8月輸入(前年比)	+15.8%	+9.2%	+5.1%
	(台湾)8月鉱工業生産(前年比)	+14.41%	--	+18.73%
9/26(金)	(シンガポール)8月鉱工業生産(前年比)	▲7.8%	▲2.4%	+7.7%

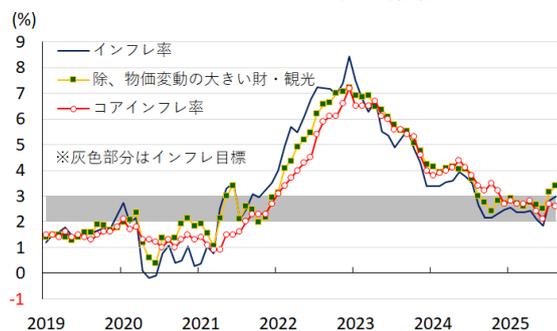
(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[オーストラリア]～8月インフレ率は加速の一方でコアインフレ率は鈍化、物価抑制策の効果一巡も影響～

24日に発表された8月の消費者物価は前年同月比+3.0%となり、前月(同+2.8%)から加速して1年1ヶ月ぶりの伸びになるとともに、オーストラリア準備銀行(RBA)が定めるインフレ目標(2~3%)の上限に達している。ただし、前月比は▲0.08%と前月(同+0.95%)から3ヶ月ぶりの下落に転じており、サービス物価が下落に転じるとともに、財価格のうち貿易財を中心に物価に下押し圧力が掛かっていることが影響している。オーストラリアでは刈り込み平均値(トリム平均値)ベースのインフレ率をコアインフレ率としており、8月は前年同月比+2.6%と前月(同+2.7%)から鈍化するとともに、目標域で推移している。一方、RBAは月次ベースの物価統計のうち、物価変動の大きい財と観光を除いたものの動きを注視しており、8月は前年同月比+3.4%と前月(同+3.2%)から加速して1年1ヶ月ぶりの伸びになるとともに、2ヶ月連続で目標の上限を上回る伸びとなっている。前月比は+0.16%と前月(同+0.79%)から上昇ペースは鈍化しているものの、観光関連以外のサービス物価に上昇圧力が掛かる動きがみられる。RBAは8月の定例会合において、年明け以降3回目の利下げを決定したものの、足元ではアルバニー政権が昨年実施した物価抑制策(電力料金に対する補助金)の効果が一巡しており、そうした事情もインフレ率が加速する一因になっている。なお、月次の物価統計は一部の品目しか対象としていない上、変動も大きいことから、RBAは政策判断の材料に四半期ベースの物価統計を用いてきた経緯がある。よって、8月のインフレ率が加速していることを受けて、RBAの政策判断が直ちに变更されるか否かは不透明であるものの、統計局は今年11月に月次物価統計の改

訂を予定しており、その後はR B Aが参照する物価統計が変更される可能性に要注意である。

図1 AU インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾]～米国向け輸出受注は堅調に推移も、世界経済の不透明感の高まりが全体的な受注の足かせに～

22日に発表された8月の失業率(季調済)は3.35%となり、前月(3.33%)から0.02pt悪化している。失業者数は前月比+0.3万人と前月(同▲0.2万人)から2ヶ月ぶりの拡大に転じており、新卒者を中心に失業が拡大する動きがみられるほか、非正規雇用者を中心に失業が拡大するなど、雇用を取り巻く環境に変化の兆しが出ている様子が見え始める。一方の雇用者数は前月比+0.3万人と前月(同+0.2万人)から4ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移している。ただし、分野別ではトランプ関税の余波を受ける形で製造業において調整の動きが強まる一方、サービス業では拡大が続く対照的な動きをみせており、分野ごとのバラつきがこれまで以上に鮮明になっている様子が見え始める。なお、雇用を取り巻く環境に不透明感が高まっているものの、労働力人口は前月比+0.5万人と前月(同+0.1万人)から4ヶ月連続で拡大しており、こうした動きを反映して労働参加率は59.46%と前月(59.40%)から+0.06pt上昇するなど、労働市場への参加意欲は高く推移している。

23日に発表された8月の輸出受注額は前年同月比+19.5%となり、前月(同+20.8%)から伸びが鈍化している。前月比は+0.41%と前月(同▲2.67%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど勢いに陰りが出ている。国・地域別では、トランプ関税の本格発動を前にした駆け込みの動きを反映して、米国向けは引き続き堅調な推移をみせているほか、ASEANなどアジア新興国向けにも底堅い動きがみられるものの、最大の輸出相手である中国本土向けが頭打ちするとともに、日本向けや欧州向けに軒並み下押し圧力が掛かるなど、世界経済の不透明感が高まっていることが輸出受注の足かせになっている様子が見え始める。

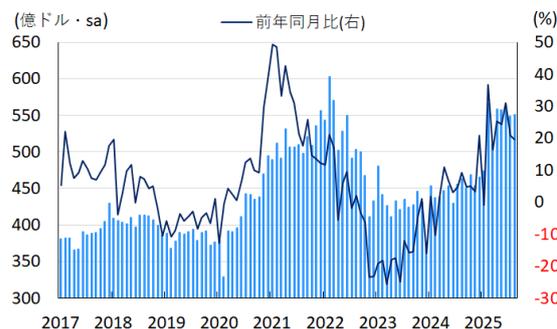
24日に発表された8月の鉱工業生産は前年同月比+14.41%となり、前月(同+18.73%)から伸びが鈍化している。前月比は+0.55%と前月(同▲0.72%)から3ヶ月ぶりの拡大に転じており、頭打ちが続いた流れに変化の兆しはみられるものの、中期的な基調は減少傾向で推移するなど力強さを欠いている。財別では、主力の輸出財である半導体など電子部品関連の生産は引き続き旺盛な推移をみせているほか、金属など素材関連の生産にも底堅い動きがみられるものの、自動車など輸送用機械関連や電気機械関連、プラスチック関連、縫製品関連など幅広い分野で生産に下押し圧力が掛かる動きがみられるなど、分野ごとのバラつきがこれまで以上に鮮明になっている。

図2 KR 雇用環境の推移



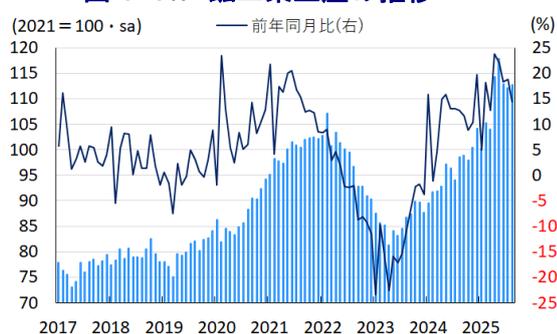
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図3 TW 輸出受注の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図4 TW 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

【シンガポール】～一部サービス物価に上昇圧力が掛かる動きも、インフレ率は4年半強ぶりの水準に鈍化～

23日に発表された8月の消費者物価は前年同月比+0.5%となり、前月(同+0.6%)からわずかに鈍化して2021年1月以来の低い伸びとなっている。ただし、前月比は+0.51%と前月(同▲0.45%)から3ヶ月ぶりの上昇に転じており、国際原油価格の調整を受けてエネルギー価格は落ち着いた推移をみせる一方、生鮮品をはじめとする食料品価格は上昇が続いており、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの様相をみせている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+0.3%となり、前月(同+0.5%)から鈍化して2021年2月以来の低い伸びとなっている。前月比は+0.06%と前月(同▲0.13%)から3ヶ月ぶりの上昇に転じているものの、エネルギー価格の安定が輸送コストの落ち着きに繋がるとともに、金融市場における通貨SGドル相場の堅調さを受けて輸入物価が落ち着いていることも重なり、幅広く財価格は安定する一方、一部のサービス物価で上昇圧力が強まっている。

26日に発表された8月の鉱工業生産は前年同月比▲7.8%となり、前月(同+7.7%)から14ヶ月ぶりに前年を下回る伸びに転じている。前月比も▲9.73%と前月(同+8.77%)から2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせるとともに、中期的な基調も減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。同国においては、月ごとにバイオ・医薬品関連の生産が上下に振れる傾向があるなか、当月は前月比▲10.16%と前月(同▲18.80%)から2ヶ月連続で減少するなど頭打ちの動きを強めている。結果、バイオ・医薬品関連を除いたベースでは、前月比▲3.53%と前月(同+7.79%)と2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせており、主力の輸出財である半導体など電子部品関連のほか、機械製品関連など幅広い分野で生産活動に下押し圧力が掛かるなど、輸出の先行きに不透明感が高まっ

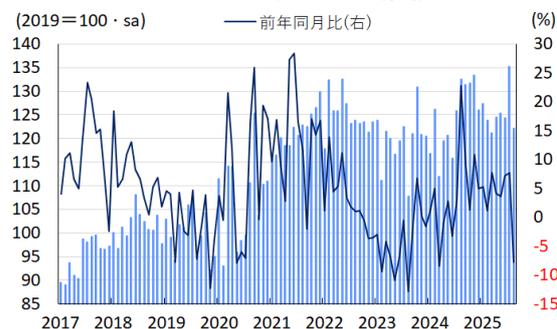
ていることが影響している。

図5 SG インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

図6 SG 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[タイ]～トランプ関税の本格発動を前にした輸出駆け込みが一巡、輸出に総じて下押し圧力が掛かる動きも～

24日に発表された8月の輸出額は前年同月比+5.8%となり、前月(同+11.0%)から伸びが鈍化している。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は2ヶ月ぶりの減少に転じるなど一進一退の動きをみせているものの、中期的な基調は減少傾向に転じるなど頭打ちの動きを強めている。財別では、金のほか、主力の輸出財である自動車の輸出に底堅い動きがみられるものの、機械製品関連の輸出に下押し圧力が掛かるとともに、農産品関連や鉱物資源関連の輸出など幅広い分野で鈍化する動きがみられる。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けは鈍化しているほか、トランプ関税の本格発動を前にした駆け込みの一巡を受けて米国向けも頭打ちするとともに、EU向けや日本向け、ASEANなど周辺国向けなど総じて弱含む動きがみられる。一方の輸入額は前年同月比+15.8%となり、前月(同+5.1%)から伸びが加速している。前月比は2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど輸出と対照的な動きをみせている。エネルギー関連の輸入が堅調な推移をみせていることが輸入全体を押し上げる一方、輸出の先行きに不透明感が高まっていることを反映して、消費財関連や資本財関連の輸入が下振れする動きがみられる。結果、貿易収支は▲19.64億ドルと前月(+3.22億ドル)から4ヶ月ぶりの赤字に転じている。

図7 TH 貿易動向の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～生活必需品に加え、財価格は落ち着いた動きをみせるも、サービス物価で上昇圧力が強まる～

23日に発表された8月の消費者物価は前年同月比+1.3%となり、前月(同+1.2%)からわずかに伸びが加速している。ただし、前月比は+0.15%と前月(同+0.15%)と同じ伸びで上昇しているものの、

国際原油価格の調整の動きを反映してエネルギー価格に下押し圧力が掛かるとともに、生鮮品をはじめとする食料品価格も緩やかな上昇に留まるなど、生活必需品の物価は落ち着いた推移をみせている。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+2.0%となり、前月（同+1.8%）から加速して2023年11月以来の高い伸びとなっている。前月比は+0.37%と前月（同+0.15%）から上昇ペースが加速しており、エネルギー価格の下落を受けて輸送コストは横這いで推移しているほか、金融市場におけるドル安を受けた通貨リング相場の上昇により輸入物価も抑えられており、幅広く財価格は落ち着いた推移をみせる一方、サービス物価に上昇圧力が強まる動きが確認されるなど、インフレ圧力が高まりつつある様子が見えてくる。

図8 MY インフレ率の推移



以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。